

# <大隅半島ノウフクコンソーシアムを設立！>



写真1 コンソーシアム設立総会にて

令和3年5月13日、大隅地域で農福連携に取り組んでいる農業法人6社、福祉事業所9社に支援機関として、錦江町及び南大隅町農政担当課、大隅くらし・しごとサポートセンター、当課で構成される「大隅半島ノウフクコンソーシアム」が設立されました。この組織は、農福連携における課題・情報を共有し早期解決を図り、新たに農福連携に取り組む事業者を支援する地域プラットフォームを目指します。農政普及課は会員と連携し、農福連携を推進していきます。

大隅半島ノウフクコンソーシアム会員名簿			
役職	事業所名・組織名	市町名	備考
会長	会社福祉法人白鳩会	南大隅町	福祉部門
副会長	(株)オキス	鹿屋市	農業部門
理事	ライズ(株)	鹿屋市	福祉部門
理事	(合)農栄ファーム	鹿屋市	農業部門
監事	(一社)PS支援機構	鹿屋市	福祉部門
会員	(株)ひまわり農苑	鹿屋市	農業部門
	NPO法人悠和会	鹿屋市	福祉部門
	(株)ジャパンピース	鹿屋市	福祉部門
	(有)みかげ	鹿屋市	福祉部門
	(有)サンフィールズ	鹿屋市	農業部門
	(一社)ナガノレーシング	東串良町	福祉部門
	(株)今村製茶	錦江町	農業部門
	(株)瑞ひかり	肝付町	農業部門
	社会福祉法人愛生会	大崎町	福祉部門
	ひふみよベースファーム大崎	大崎町	福祉部門
支援機関	錦江町産業振興課	錦江町	
	南大隅町経済課	南大隅町	
	大隅くらし・しごとサポートセンター		
	大隅地域振興局農林水産部農政普及課		

# <動力刈払機を安全に使いましょ！>

ケガも含めた事故件数が最も多い農業機械が、**動力刈払機**です。

畦草払い、藪払い、道路清掃等も含め多くの場面で使われ、誰でも使える身近な機械です。今年度、県内でも刈払機による重大事故が発生しています。安全な使い方を今一度確認しましょう。

## 刈払機事故の4つの特徴

### 1 傾斜面・法面の不安定姿勢による事故

- 30~40°以上の傾斜地・法面は滑りやすい
- ⇒小段の設置、スパイク靴の着用

### 2 回転刃の事故(接触、飛散物)

- キックバックや小石、チップの飛散
- ⇒防護の徹底、飛散防止カバーを外さない

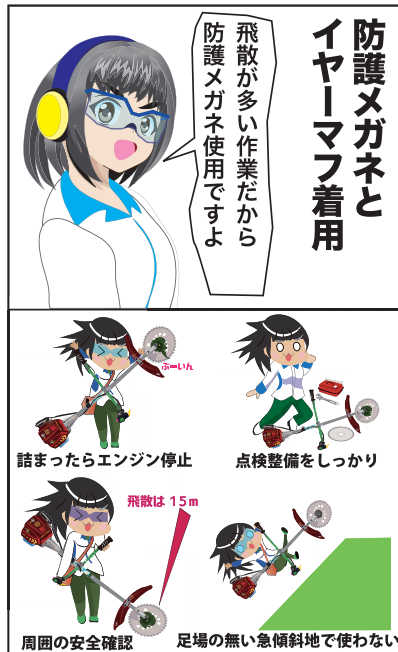
### 3 事前の環境確認で防ぐ事ができた事故

- 草むらの中に潜む構造物、異物
- ⇒慣れた場所でも、事前確認

### 4 エンジンを止めずに起こった事故

- 回転を止めず、草の詰まりなどを除こうとして
- ⇒確実に、エンジンを切ってから

(出典：農研機構)



(出典：鹿児島県農業機械連絡協議会(農政部経営技術課内))

# 普及だより



●編集発行  
大隅地域振興局農林水産部農政普及課  
肝属地域農業改良普及事業協議会  
ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/ao01/chiiki/osumi/index.html>

鹿屋市打馬2丁目16-6  
TEL:0994-52-2146  
FAX:0994-52-2147

## < サツマイモ基腐病対策の取組 >

### 1 現在の取組体制

大隅地域では平成30年以降、サツマイモ基腐病の発生による減収が続いています。

このような中、地域の関係機関・団体・生産者及び国・県の試験研究機関が一体となって基腐病の早期防除体制の確立に向けて取り組み、大隅地域のさつまいもの生産振興を図る目的で「大隅地域サツマイモ基腐病対策プロジェクト本部」を設置しました。

### 2 取組内容

- (1) 鹿屋市(旧鹿屋、旧吾平)、錦江町、肝付町の重点地区から選定した重点指導農家に対する農家の育苗ハウスから本ほまでの生育ステージごとの継続的な巡回指導、農家への技術指導、発生実態把握の実施。
- (2) 研修会、講習会の開催  
残渣の処理、苗床の消毒、健全種いもの確保、排水対策や本ほの土壌消毒などについての研修会・講習会の開催。
- (3) 病害対策技術の確立を図るための各種実証ほの設置。
- (4) 健全苗の確保対策や農地交換の仕組みづくり等の検討。
- (5) 基腐病対策に係る啓発資料の配布。

### 3 最後に

下記防除対策、被害軽減に取り組み、さつまいもの生産安定につなげましょう。

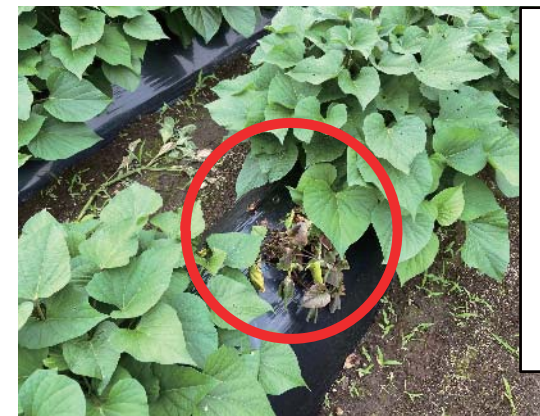


写真1 基腐病は茎葉が紫色や黄色に変色し次第にしおれる。初期の発病株は抜き取り処分する。



写真2 苗消毒は確実にを行う。



写真3 基腐病は水がたまりやすい場所で発病が多いので、排水対策が重要。



写真4 バイオ苗を挿し苗増殖して無病苗を確保する。

# 知って得する!技術情報!!

## <茶：定期的に密度を減らそう。ーチャトゲコナジラミー>

侵入害虫チャトゲコナジラミの発生は管内のほぼ全域に拡大し、防除等の対策がなかった場合は、すす病により樹冠下が真っ黒になるほどの高密度になっています。

一方で天敵シルベストリコバチの寄生も確認されてきていますので、チャトゲコナジラミの密度を下げ、天敵との共存を安定化させることが重要になってきます。チャトゲコナジラミは、年4回発生し、基幹防除としては第一幼虫世代(5月)、第三幼虫世代(8~9月)としていますが、深刈更新等の寄生葉を剪除することでも十分に密度低下の効果が期待できます。



写真1 シルベストリコバチ♀成虫(1mm程度)

### ポイント1：越冬幼虫の防除

最終世代成虫(10月下旬~11月上旬)の発生が終息した頃が防除適期になるので、秋整枝(秋冬番茶)後頃が目処となる。

秋期のハダニなどの防除時期にもなるので、ハダニ発生が多い園では同時防除できる薬剤で防除する。

### ポイント2：発生消長に合わせた「裾刈り」

裾刈りは、様々な管理作業が行いやすいように生産者毎に任意に実施されているが、チャトゲコナジラミの各発生ステージの成虫乱舞が収まった「卵、幼虫期」に裾刈りを行えば、効率的な密度低下につながる。



写真1 幼虫寄生葉を「裾刈り」で剪除

## <花き：キク類の効果的な矮化剤処理について>

キク栽培の現場では、ボリュームアップや草姿改善を目的として矮化剤の一つであるダミノジッド剤(商品名 ビーナイン、キクエモン等)が作業体系のなかに組み込まれています。

今回は矮化剤を効果的に利用するための働きや注意点についてまとめてみました。

### 1 ダミノジッドの働き

植物ホルモンであるジベレリンの合成阻害。草丈の伸長を抑えて節間長が短くなるため切り花重が増加し、ボリュームアップにつながる。

### 2 散布時のダミノジッドの動態

植物表面のワックス層のひびなどから植物体内に侵入する。ダミノジッドは水性のため、油脂であるワックス層やクチクラ層を通過するには時間がかかる。

散布後すぐに乾かない時間帯(早朝もしくは夕方)に散布すると効率的に吸収される。

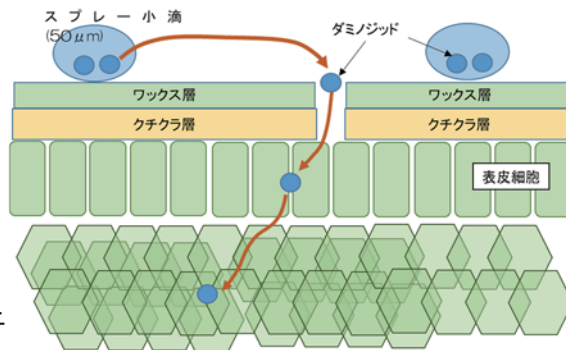


図1 ダミノジッドの吸収の様子

### 3 効果的な散布法

植物体内に吸収されると2週間程度で分解すると考えられている。従って、高濃度で単発の散布より2週間に1回のペースで低濃度の溶液を複数回散布した方が草姿のバランスが良く仕上がる。

# 知って得する!技術情報!!

## <野菜編 鹿児島県育成ばれいしょ新品種のご紹介>

鹿児島県で育成された「ばれいしょ新品種」「しまあかり」と「しまクイーン」を紹介します。

現在、栽培されている主要品種は、重要害虫である「ジャガイモシストセンチュウ」に対する抵抗性を持っていないため、「種ばれいしょ産地におけるセンチュウの蔓延防止を図る」という国の方針を受け、鹿児島県オリジナル品種の育成を開始し、「しまあかり」と「しまクイーン」が誕生した。

「しまあかり」と「しまクイーン」を、大隅地域振興局管内なんぐう地区で実証栽培したところ、両品種とも、収量は「ニシユタカ」と同程度で、そうか病の発生が少ないという特性が確認できた。

今後、更なる増収や品質向上に向けた検討を行っていく必要がある。

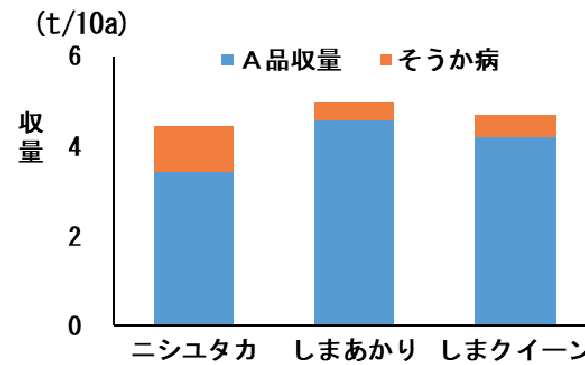


図1 令和3年産収量(佐多,根占,大根占の平均)



写真1 「しまあかり」「しまクイーン」の形状と肉色

## <畜産編 ほ乳子牛へのエサやりのコツ!>

分娩が重なり、月齢も性別も違う複数の子牛を同じ部屋で育てる(群飼いの)場合は、発育の差が大きくなりがちです。次のような給与方法の改善でバラツキをなくしましょう。

### 偏らない食べ方の工夫

### えづけ用濃厚飼料と乾草を、よ〜く!混ぜて 給与すること

○えづけ飼料と乾草を別々に餌槽に置かないこと。別々に置くと、大きい子牛・強い子牛が、えづけ飼料を食べ過ぎてしまい、食欲減退や下痢などに! 小さい子牛・弱い子牛は、乾草を多く食べるを得ず、消化不良による下痢や栄養不足につながる。えづけ飼料9:乾草1の割合で混合を!

### 全頭!腹一杯食べる工夫

### 次の給与までに食べきる量の給与と追加給与を繰り返すこと

○小さい子牛もしっかり食べられるよう、次のエサやりの時に、少〜しエサ箱に残る程度に給与する。  
○早く食べきってれば、事前に混ぜておいたエサをいつでも補給する。  
○毎日これを繰り返すと、無駄をすることなく、食べる量は増加する。

### 注意点

### 次の点を守れば、さらにバラツキが少なく育ちます

- 1部屋で食べる子牛は3頭以内とする。(子牛が多いときは部屋を区切る)
- 初乳給与・駆虫・消毒や掃除・換気の徹底で病気をさせない環境を作る。
- 一度に山盛りにエサを給与しない。(よだれやハエの消化液で腐り食べなくなる)
- 1~2センチに切った良質乾草を混ぜる。(小さい子牛が多い時は、乾草割合を減らす)
- 新鮮な水をいつでも飲めるようにする。

